

令和4年度募集 国分寺市提案型協働事業「提案書」



令和4年 7月 20日

国分寺市長 殿

団体の所在地 東京都国分寺市東元町1-38-32

団 体 名 ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター's～

代表者氏名 小 川 みさと

(※)本人が手書き(署名)しない場合は、記名し押印してください。

次のとおり提案します。なお、会員名簿・担当者連絡先を除き公開を承諾します。

1 提案事業名	多職種による妊娠期から未就学児期のサポート事業 (適合する、市の施策または事務事業名： 子育て世代包括支援センター事業	
2 提案事業期間	令和5年4月1日 から 令和6年3月31日まで	
3 提案事業予算	1, 323, 000円	
4 提案概要 (事業目的、内容等を 400字以内でご記入 ください。この欄の 記載内容は、ホーム ページ等で公表します。)	<p>令和3年度より実施、「多職種による妊娠期から未就学児期のサポート事業」3年目の申請です。</p> <p>【目的】妊娠期から講座や交流会などを通して専門職が出産・子育てに継続して関わることで、母自身がつながりを作る力をつけ、パートナー同士の関わりを深め、地域の子育て世代の家族間交流を促すことで、孤独な子育て(孤育)を回避し健康増進につなげる。</p> <p>【内容】妊娠期の講座&交流会(対面・オンライン)、妊娠期から未就学児期対象の専門職によるトークルーム(対面・オンライン)、電話・メール相談の実施など。</p> <p>【特徴】要介入層に対し重点的に深く関わる市担当職員と、中間層(グレーゾーン)や一般層(健康群)に関わる当団体の役割を分担しつつ協働連携することで、市全体の母子支援体制の充実を図るとともに、子育て世代の家族間で育ち合う地域づくりを目指し健康保持増進を図る。</p>	
5 添付書類	<input checked="" type="checkbox"/> 提案書(2号様式)1&2 <input checked="" type="checkbox"/> 収支予算書(3号様式) <input checked="" type="checkbox"/> 団体概要書(4号様式) <input checked="" type="checkbox"/> 定款又は規約 <input checked="" type="checkbox"/> 会員名簿 <input checked="" type="checkbox"/> 予算・決算関係書類 <input type="checkbox"/> 法人市民税納税証明書 <input type="checkbox"/> その他()	

1 提案事業名	多職種による妊娠期から未就学児期のサポート事業
2 事業の目的 (解決すべき社会問題・地域課題、事業の意義や必要性について)	<p>地域とのつながり</p> <p>新型コロナウイルス感染症が拡大して既に2年が経過した。この間に第1子を出産した方の中には、安全安心のために社会資源を利用しないまま第2子を迎える家庭もあり、今後も親子ひろばの利用や相談場所などに向くことが困難な状態が続くことが予想される。また、国分寺市は子育て世代の転入が多く、地域の子育て情報を知らないまま第2子、第3子を迎える家庭や、上の子の発達や発育に関して悩みを抱えているケースも少なくない。上の子中心の生活は妊娠期においても上の子を我慢させることにならないよう気遣うあまり、妊婦が自身の身体を気遣うゆとりが持てないこともある。また、出産に向けて必要な準備として、家事以外に上の子のことも不安材料となるが、地域での知り合いが少なく頼れる存在が少ない、相談するすべを知らないという状況のままでは、安心して上の子を預けることもできない。新生児を抱えて上の子との生活は産婦の体調には負担が大きい。個々の家庭だけで解決しないで済む手段を見つけるために、産前から地域につながりを持てるようなアプローチが重要である。また、父親も妻の出産後の生活が一変、仕事と育児の両立、育休取得して育児家事に追われるなど、対応しようとする一方で子どもが生まれて3か月から6か月の間に精神不安定になる事例もみられる。</p> <p>母の不安と専門職との関わりの強化</p> <p>市では妊婦全員を対象とした妊娠期の面接（ゆりかご・こくぶんじ）や、産後ケア（デイサービス）利用にあたり、産後家族からの支援が受けられない、体調不調、育児不安の方と面談を行っている。また、従来集団健診で実施されていた「3～4 か月児健診」は90%を超える受診率であった。コロナ禍以降個別健診を希望する声も多く、令和4年度より、個別健診となった。児の成長発達については医師の観察が継続されるが、母親自身のことは保健センターで実施する産婦・育児相談（4～5 か月）に足を運ぶこととなる。そのため小さな児を連れて母親自身の相談に行くにはハードルが高い可能性があり、専門職チームとして、母の不安を解消し、支援の必要な家庭を見つける仕組みづくりが必要である。そのための新たな取り組みがリフレッシュクラスとなる。</p> <p>発達不安</p> <p>育てにくさや発達に課題を抱えていることを認識しているが、仕事や育児、家事などの日常生活にゆとりがなく相談できないまま、就園前に発達についての指摘を受け戸惑ったというケースもある。一方で我が子と他所</p>

の子の成長発達を比べすぎて不安になることもあり、コロナ禍も影響し集団で集える環境の減少により、地域において子ども同士の育ち合いを見守る場が求められている。

育児困難が生じるリスク

多胎児の場合、単胎の育児に比べ支援の手が通常よりも必要となる。また、早産となり医療的なケアが必要でない場合でも、他者とのふれあいや外出への不安があり、社会資源を利用するまでに時間を要するケースが多い。その上、発育や発達面に関しての不安は尽きず、医療者との関わり以外のコミュニティから孤立しがちである。また、外国にルーツのある方も文化の違いや生活習慣の違いなどに馴染めず孤立した育児となっていることも多くある。

(まとめ)

本事業では、妊娠期から未就学児期までの多様化する課題を、個々の家庭に合わせて継続支援を実施することで、子どもたちの育ちを見守る仕組みにつなげ子育て世代の健康増進を図る。専門職が身近な地域で妊娠中から出産・子育て時期に関りを持つきっかけづくりと継続支援のため、対面とオンラインを併用して講座及び交流会を実施し、子育てにおける仲間づくりができるようアプローチする。

オンラインの活用は、コロナ禍としての対応だけでなく、出産直前や産後すぐ、また、切迫早産との診断をされている時期など外出もままならず、不安を抱えている方の不安軽減につなげるとともに、マスクを着用していないので、対面以上に表情を確認でき、生活環境を知ることにもつながる。また、画面を OFF 状態にすることで情報だけを収集することもでき、選択の幅を広げることにつながる。

電話やメールでの相談を平日夜間、日曜日にて対応することにより、仕事している方や日中育児に追われている方も相談をしたい時に相談できる環境の整備となる。

また、市内の関係団体と連携し多胎児や外国にルーツのある方を対象とした取組を設定し対応する。早産児や多胎児の保護者、外国にルーツのある方同士が気軽に話せる場の提供など

母子だけでなくパートナーが参加しやすい講座及び昨年度や今年度の事業に参加した先輩パパとの交流会を実施して仲間づくりをすすめ、パートナー（父）が主体的に育児に取組め、地域とのつながりを作るようサポートする。

<p>3 事業の内容 (事業の目的を達成するために何を するか)</p>	<p>各地域の公共施設や親子ひろばなどを使用した対面型やオンラインによる、講座及び交流会を開催 相談事業として、電話・メールによる相談窓口の設置</p> <p><u>1) 「妊娠期の講座」(対面・オンライン)</u></p> <p>対象者：妊婦とそのパートナー及び上のお子さん(保育無) 開催日：日曜・祝日 開催頻度：対面型・オンライン型 各月1回 講座担当：助産師、はり師きゅう師、ディベロプメンタルプログラム aceki 認定トレーナー アシスタント：助産師、保育士など 対面型：3部制(各回予約要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠中の体づくり 約40分 2 産後の生活に向けた準備 約80分 <p>※ 妊婦とパートナーに分かれての交流時間含む</p> <ol style="list-style-type: none"> 3 赤ちゃんの関わり方のポイント 約40分 <p>オンライン型：約120分</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊娠中の体づくり 約40分 2 産後の生活に向けた準備 約40分 3 赤ちゃんの関わり方のポイント 約40分 <p><u>2) 「専門職によるトークルーム」(対面・オンライン)</u></p> <p>対象者：妊婦及び未就学児のいる家庭 開催日：平日及び土曜日など(日中・夜間) 開催頻度：月3回程度(講座・交流会・相談会など) 担当：助産師・はり師きゅう師・管理栄養士・歯科衛生士・社会福祉士・保育士・絵本専門士など</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 妊婦向け出産準備用品や出産に向けた気持ちの準備など 2 妊婦向け妊娠期の食事作り 3 産後の食事と離乳食 4 産後のセルフケア 5 卒乳について 6 虫歯対策と成長に合わせたケア 7 月齢に合わせたわらべうた・絵本の選び方 8 母と子のためのリフレッシュクラス <p>※産婦、早産児・多胎児・外国にルーツのある方など少人数クラス</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 パートナーと先輩パパの交流会など <p><u>3) 「電話・メールによる相談」</u></p> <p>対象者：妊婦及び未就学児のいる家庭 実施日：平日 17:00～20:00 日曜日 10:00～17:00 ※メールは時間外の受信も対応</p>
--	--

<p>4 事業計画 (事業の実施スケジュール)</p>	<p>4月 講座及び交流会、開催内容・日時・場所を決定。 講座他周知用チラシ・ポスター作成(年間予定表) 電話・メール相談実施 担当課と毎月の実施内容及び報告会実施</p> <p>5月 事業の告知 講座・トークルームアンケートの内容を決定</p> <p>6月 スケジュールに従い、事業開始 講座・トークルーム参加者アンケート実施 相談内容の取りまとめ ※事業内容の確認、問題点や状況確認、改善点と取組方法など検討 ～6月から3月まで事業実施～</p> <p>3月 事業取りまとめ</p>
<p>5 目標値 (事業期間で達成する目標)</p>	<p>国分寺市は妊娠期から幼児期にかけての転入者が多く、第2子の妊娠といっても市内の情報をよく知らないご家庭も多くあります。そのため、市内全域の公共施設や親子ひろばを使用して妊娠期からの講座事業を実施し、住んでいる地域の親子ひろばや地域の情報を提供します。事業に参加することで親子ひろば利用のハードルを下げ、気軽に地域の情報を得られるようにします。また、多職種による多様なニーズに対応できる体制を整えます。講座後も電話やメールなどで継続的に相談や情報提供できる環境を作り、支援が必要と感じたときに保護者から SOS を発信できる関係性を育んでおくことで、産後うつや孤育などによる育児不安を軽減し、中間層から自立した育児へ向かうことが期待されます。</p> <p><u>1) 「妊娠期の講座」(対面・オンライン)</u></p> <p>対面：1回5組程度(10名+α) × 10回 = 約100名 オンライン：1回10組程度(20名+α) × 10回 = 約200名 ※+αは上のお子さんの人数</p> <p><u>2) 「専門職によるトークルーム」(対面・オンライン)</u></p> <p>1回(2時間程度) 各10組程度(約20名) × 20回 = 約400名 早産児等少人数クラス：各3組程度(約6名) × 10回 = 約60名</p> <p><u>3) 電話・メールによる相談</u></p> <p>平日夜間対応：17:00～20:00 月20日(60時間) × 12ヵ月 = 720時間 日曜日対応：10:00～17:00 月4日(28時間) × 12ヵ月 = 336時間</p>

6 事業の対象 (地域, 具体的対象者, 対象総人数等)	市内全域 市内在住の妊婦及びそのパートナー、未就学児童のいるご家庭。 対象総人数: 約 8,000 名 ※国分寺市出生数約 1,000 人×2 (妊婦及びパートナー) 2,000 人 0歳から5歳児のいるご家庭 1,000 人×6=6,000 人
7 事業の実施場所	市内全域の公共施設及び親子ひろばほか 公共施設 (公民館・地域センター・スポーツ施設・いずみホール・cocobunji プラザほか)
8 役割分担 (具体的に)	<p><提案団体が担う役割></p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催案内作成 ・申込受付、問合せ、相談対応 ・職員手配・対応 ・職員や保険などの支払 ・相談対応における職員の配置、支払 <p><市が担う役割></p> <p>健康推進課</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催場所の提供 ・開催告知 ・毎月の報告会実施場所の提供 ・報告内容に応じて、支援が必要な場合、個々への対応を行う。 <p>子育て相談室 子ども家庭支援センター地域担当 (協力課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設利用にあたる情報共有 ・親子ひろば運営事業所などへの広報ほか ・子育て応援パートナーとの連携
9 目標が達成された状態	<p>妊娠期から子育て期において、切れ目のない支援の構築が必須です。</p> <p>国分寺市の母子保健事業の取組である、ポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを組合わせた取組は虐待予防の観点からも重要な視点となります。</p> <p>本事業では、ポピュレーションアプローチにて支援の必要な家庭を見つける仕組みであるスクリーニング機能の一端を担い、妊娠期から継続的に関わるための仕組みとする。多様な専門職が必要な時期に必要性を認識できる関係を築き継続的な関りから早期に各家庭の困りごとに対応することで要支援となる家庭の減少とします。そのために市が事業を実施していない休日や時間帯の対応、子育て支援事業者及び協力課である子育て相談室の子育て応援パートナーとの連携も強化することで、理想とする重層的な支援体制とする仕組み作りにつなげま</p>

	<p>す。ハイリスクアプローチの必要なご家庭への育児支援を丁寧により効果的なものとすることも可能となります。</p> <p>コロナ禍におけるライフスタイルも更に多様化が進み、オンラインを使用した生活も日常となっている家庭も多い。対面はもちろんオンラインと併用した取組を実施することで、妊娠期から継続して多職種が関わることができ、一人ひとりのニーズに合わせたサポートで育児不安が軽減されます。特に出産の直前直後の不安定な時期や、出産後の退院し自宅にもどった時から医療機関などでの健診までの孤立しがちな期間に、日時の心配なく SOS を発信できる場として、電話・メール相談や専門職によるトークルームなどを認知できることは、産後うつ発症や育児ノイローゼの悪化を軽減、早期回復へとつなげ、予防の概念に添った仕組みづくりにつなげます。</p> <p>また、母親だけでなく父親についても、妊娠期から専門職が父親との関わりを持っておくことで、父親も、母親（妻）の子育てのお手伝いではなく父親自身の役割を認識でき、長期的な継続支援の必要な機能不全家族に陥ることなく、最小限のサポートで、その後の育児、子育てがより豊かなものになると期待され、各家庭の健康保持増進につながります。</p> <p>「豊かな地域環境で育児が出来る」と思えることは、少子高齢化社会にとっては出生率を上げる機会となり、健やか親子21で掲げる出生率“1.8”につながるものと期待しています。</p>
<p>10 市と協働する意義及び必要性、協働による相乗効果</p>	<p>国分寺市は出生数約 1,000 人に対して約半数が第1子である。そのため、市の両親学級は平日だけでなく土曜日も開催、新型コロナウイルス感染症拡大防止によりオンラインも実施している。参加希望者は多い。</p> <p>第2子の妊娠期においても上のお子さんへの対応など第1子の時とは違う問題に不安を抱えることも多い。妊娠期の早い段階から取りこぼすことなく関わるためには、対面式はもちろんオンライン開催で、多様なニーズに対応可能な講座内容の企画運営をする。</p> <p>市担当職員との報告会を毎月開催し情報共有することで、支援が必要な方を早期に市につなげ、市は個別に丁寧な関わりを持つことが出来る。また、ご家庭によっては、市から支援を受けることに抵抗を感じている場合がある。当団体が丁寧にメリットを伝えることで、その人に合う支援につなげる。</p> <p>また、平日電話をかけることが困難な方への対応策が少なく、市が平日 17:00 以降や日曜日に対応することは難しい。メールなども使い、時間帯を気にせず相談出来る環境をつくることで、早期に対応でき不安軽減につながる。</p> <p>国分寺市ではポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチを組合わせた取組を実施しており、本協働事業で、一般層・中間層・要介入層への関わり方をより明確にするために、行政だからできる支援、民間だからできる支援を双方が理解し、それぞれの役割を果たすことで、妊婦から未就学児期の家族の心身の健康問題を個々のニーズ</p>

	に合わせた解決策を提案することが、支援体制の構築につながり相乗効果が生まれる。
11 事業実施後の展開 (成果の活用方法又は、提案団体の自主的な活動展開等)	<p>子育て世代包括支援センター事業について、国は各市町村の実情にあった形での取り組みを期待している。妊娠・出産・子育てに関する様々なニーズに対し、個々への丁寧な関わりを目指すためである。社会環境が激変している中で、協働事業を通じてより良い支援のために必要な事業運営を精査し、一人一人のニーズを把握するノウハウを高め、子育て世代の健康保持増進を期待したい。</p> <p>自主活動においてはアウトリーチ型の産前・産後継続サポート事業を行い、各家庭の環境に応じた支援を訪問時に提案、また地域での仲間づくりを支援するため交流の場としてゆいぽっこひろばを実施。他団体とのコラボ形式なども定期開催。妊娠期の孤立や育児期の孤育て解消となるよう、多職種で多機能な事業運営を目指す。</p>

令和4年度募集 提案型協働事業 収支予算書

(収入の部)														
大項目		中項目		内訳							中項目計		大項目計	
委託費				1,323,000 1回 = 1,323,000 円							1,323,000 円		1,323,000 円	
				円							円		円	
				円										
合 計													1,323,000 円	
(支出の部)														
大項目		中項目		内訳							中項目計		大項目計	
人件費	「妊娠期の講座＆交流会」(日曜祝日)	企画・準備・進行管理(対面型)		2,200円 × 3.0H × 2人 × 10回 = 132,000 円							1,089,000 円	1,180,200 円		
		企画・準備・進行管理(オンライン型)		2,200円 × 2.0H × 1人 × 10回 = 44,000 円										
		講座準備実施アシスタント(対面型)		1,100円 × 3.0H × 1人 × 10回 = 33,000 円										
		講座準備実施アシスタント(オンライン型)		1,100円 × 2.0H × 1人 × 10回 = 22,000 円										
		企画・準備・進行管理		2,200円 × 2.0H × 1人 × 30回 = 132,000 円										
	「専門職によるトークルーム」(対面・オンライン)	講座準備実施アシスタント		1,100円 × 2.0H × 1人 × 30回 = 66,000 円										
		電話・メール相談(平日夜間・日曜日)	相談対応窓口(平日:月20日×1.0H,日曜日:月4日×5.0H)		1,100円 × 40.0H × 1人 × 12ヵ月 = 528,000 円									
			専門職による相談対応		2,200円 × 5.0H × 1人 × 12ヵ月 = 132,000 円									
			事業内容の報告ほか打合せ	担当課との定例報告会及び打合せ		1,100円 × 2.0H × 2人 × 12ヵ月 = 52,800 円								
		事務総括		1,100円 × 2.0H × 1人 × 12ヵ月 = 26,400 円										
アンケート及び報告書まとめ		1,200円 × 10.0H × 1人 = 12,000 円												
報償費				円							円		円	
印刷製本費				講座・電話メール相談チラシ作成 10円 × 2,000枚 × 1.10 = 22,000 円							22,000 円		22,000 円	
消耗品費				印刷用紙(A4) 2,000円 × 1箱 × 1.10 = 2,200 円 プリンターインク 5,000円 × 1箱 × 1.10 = 5,500 円 感染対策用品(消毒液、ウェットティッシュなど) 3,000円 × 1.10 = 3,300 円							11,000 円		11,000 円	
通信運搬費		電話・メール相談		通話料金(令和3年度からの継続事業のため) 4,000円 × 1.10 × 12ヵ月 = 52,800 円							52,800 円		52,800 円	
旅費交通費				円							円		円	
保険料		保険料		賠償責任保険 7,000円 × 1年 = 7,000 円							7,000 円		7,000 円	
備品借上げ料				円							円		円	
賃借料				円							円		円	
直接経費計											1,273,000 円		1,273,000 円	
諸経費				直接経費 1,273,000円×10%=127,300円以下の内50,000円を計上							50,000 円		50,000 円	
合 計				(消費税含む)									1,323,000 円	

式第4号（市民活動団体提案事業）

団 体 概 要 書

※ 枠の大きさは、字数制限を表すものではありません。枠を広げて必要な事項を記入してください。

ただし、簡潔に分かりやすく記入してください。

団体の名称	(フリガナ) ユイボッコ ～チイキニツナゲルサポーターズ～ ゆいぼっこ ～地域につなげるサポーターズ～		
所在地	〒 185-0022 国分寺市東元町 1-38-32 ファミリーサロン内		
設立年月日	2019 年 4 月		
会員の状況	正会員数 14 人・ 団体 (内国分寺市民 9 人)	年会費	1,000 円
	賛助会員数 0 人 団体	年会費	
活動目的	助産師とその他専門職が妊娠期から子育て期の母（父）子を、専門的な知識と多職種による多角的な視点から利用者に応じた支援に結び付けられるようサポートすることを目的とする。		
活動内容・活動実績 (既に協働による委託事業等の実績がある場合には、委託事業名、委託契約先名、委託時期を記入して下さい。)	令和3年度提案型協働事業「妊娠期からのサポート事業」実施 令和4年度提案型協働事業「妊娠期から未就学児期のサポート事業」実施 ・研修事業として講座を開催 ・鍼灸による、妊娠期の体づくり ・ディベロプメンタルプログラム研修 ・妊婦さん限定オンライン助産師相談実施 ・ゆいぼっこひろば（対面・オンライン併用のひろば開催） ※他団体とのコラボも実施		
ホームページ	https://yuibocco.amebaownd.com/		

担当者連絡先	
--------	--

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ 会則

第一条<団体の名称>

この団体の名称をゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ と称する。

第二条<設置の目的>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ は、助産師とその他の専門職が妊娠期から子育て期の母（父）子を、専門的な知識と多職種による多角的な視点から利用者に応じた支援に結びつけられるようサポートすることを目的とする。

第三条<主な活動内容>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ は、妊娠期から子育て期の母（父）子の心身の具体的な支援及び相談を実施する。

二、当会は、妊娠期から子育て期の母（父）子の心身の具体的な支援及び相談を実施する。

- 1) 訪問事業によるサポート
- 2) 講座などの開催
- 3) 電話&メールによる相談
- 4) 交流会などのイベント実施
- 5) その他、妊娠期から子育て期の母（父）子の支援に関すること。

三、当会は、国分寺市における子育て支援団体と協力し地域での子育て支援につなげる。

- 1) 専門職同士の勉強会及び交流の場の企画・実施
- 2) 関係機関同士の情報交換会の実施

第四条<代表、役員、事務局、及び会計監査>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ は、以下の役員による役員会を組織し、それぞれの役割を委任する。

- 1) 代表1名は、当会を代表し、全ての活動を統括する。
- 2) 副代表は、代表を補佐し、代表がその任を果たすことができない時に職務を代理する。
- 3) 会計は、当会の会計をとりまとめる。
- 4) 書記は、事務局議事及び当会議事を記録する。

二、副代表、会計、書記の人数は、必要に応じてその人数を決定する。

三、会計監査を役員以外に選出し、会計監査を委嘱する。

四、当会事務局をファミリーサロン内（国分寺市東元町1-3 8-3 2）に置く。

第五条<会計及び運営費>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ は、事務局運営費及びその他の経費のために、

年会費 1,000 円、助成金、補助金、寄付金などから、これに充てる。

第六条<総会>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ 代表は活動報告会を開催しなければならない。

二、活動報告会は、活動報告及び収支報告、監査報告を実施する。

三、活動報告会は、活動計画及び予算案を提起する。

四、活動報告会は、役員改選を提起し選任する。

五、代表は、その他の運営に関する重要事項が生じた場合は適宜話し合いを行う。

第七条<退会及び構成員の変更>

ゆいぽっこ ～地域につなげるサポーター'S～ に参加する専門職ほか、当会を退会する場合は、活動報告会前に代表に申し出を行わなければならない。

第八条<会則の改訂及び総会決定の委任>

この会則を改定する場合は、会員の過半数の承認をもって改訂することができる。

第九条<会則の施行日>

この会則は、平成 31 年 4 月 1 日を施行日とする。

2021年度決算書 2021年5月1日～2022年4月30日			
科 目	金 額		備 考
収入の部	決算額	予算額	
会費収入	¥ 13,000	¥ -	
事業収入/参加費収入	¥ 650,145	¥ -	国分寺市提案型協働事業委託/ 講演料
寄付金収入	¥ 145,951	¥ -	
前年度繰越金	¥ -	¥ -	
利息 ほか	¥ 3		
収入合計	¥ 809,099	¥ -	
支出の部	決算額	予算額	
事業費*			
人件費	¥ 367,400	¥ -	
報償費	¥ 198,000	¥ -	
印刷製本費	¥ 34,501	¥ -	
消耗品費	¥ 12,283	¥ -	
通信運搬費	¥ 49,162	¥ -	
保険料	¥ 17,470	¥ -	
賃借料	¥ 500	¥ -	
事業費支出合計	¥ 679,316	¥ -	事業費割合
管理費			
役員報酬	¥ -	¥ -	
役員交通費	¥ -	¥ -	
什器設備費	¥ 36,000	¥ -	
光熱費	¥ -	¥ -	
消耗品費	¥ -	¥ -	
通信運搬費	¥ -	¥ -	
印刷製本費	¥ -	¥ -	
租税公課	¥ 200	¥ -	
会議費	¥ -	¥ -	
事務所家賃			
雑費	¥ -	¥ -	
書籍	¥ -	¥ -	
人件費	¥ -	¥ -	
予備費		¥ -	
予備費	¥ 93,583	¥ -	
管理費支出合計	¥ 129,783	¥ -	管理費割合
支出合計(事業費+管理費)	¥ 809,099	¥ -	
収入合計-支出合計(次年度繰越金)	¥ 93,583	¥ -	

2022年度予算書 2022年5月1日～2023年4月30日			
	金額		備考
収入の部	2022予算	2021決算額	
会費収入	¥ 13,000	¥ 13,000	
事業収入/参加費収入	¥ 1,365,400	¥ 650,145	
寄付金収入	¥ 100,000	¥ 145,951	
前年度繰越金	¥ 93,583	¥ -	
利息他	¥ -	¥ 3	
収入合計	¥ 1,571,983	¥ 809,099	
支出の部	2022予算	2021決算額	
事業費			
人件費	¥ 1,300,000	¥ 367,400	
報償費	¥ -	¥ 198,000	
印刷製本費	¥ 30,000	¥ 34,501	
消耗品費	¥ 20,000	¥ 12,283	
通信運搬費	¥ 50,000	¥ 49,162	
保険料	¥ 18,000	¥ 17,470	
賃借料	¥ 2,000	¥ 500	
管理費			
役員交通費	¥ -	¥ -	
什器設備費	¥ -	¥ 36,000	
消耗品費	¥ -	¥ -	
通信運搬費	¥ -	¥ -	
印刷製本費	¥ -	¥ -	
租税公課	¥ 200	¥ 200	
会議費	¥ -	¥ -	
事務所家賃	¥ -	¥ -	
雑費	¥ -	¥ -	
書籍	¥ -	¥ -	
人件費	¥ -	¥ -	
予備費	¥ -	¥ -	
予備費	¥ 151,783	¥ 93,583	
支出合計	¥ 1,571,983	¥ 809,099	